

30. 鹿児島県におけるてんかん地域診療連携体制整備事業（2022年度）

鹿児島大学病院てんかんセンター 花谷亮典

1. 概要

2022年3月18日に第4回の協議会を開催し、拠点病院を中心とした2021年度の活動報告と、2022年度の活動計画報告が行われ承認された。

鹿児島県てんかん治療医療連携協議会構成委員 12名

鹿児島大学てんかんセンター 医師2名（センター長、副センター長）

鹿児島医師会（常任理事）

鹿児島県精神科病院協会（理事）

てんかん協会鹿児島県支部

鹿児島県看護協会

鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会

鹿児島県精神保健福祉士協会

鹿児島県精神保健福祉センター（所長）

県立保健所長会（始良保健所長）

鹿児島県教育庁（保健体育課長）

鹿児島県くらし保健福祉部（精神保健福祉対策監）

事務局：鹿児島大学てんかんセンター（拠点病院）

鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課

2. 活動状況

COVID-19 流行下にあり、非対面方式の会議と講演会、拠点病院を中心としたてんかんの診療と福祉の連携体制構築に向けた取り組みを継続している。

2022年度の計画に基づいて、以下の活動を行った。

1) てんかん診療についての普及啓発

①啓発活動

パープルデー：てんかん協会鹿児島支部会員・鹿児島大学てんかんセンターコーディネーターらによる街頭啓発活動、および鹿児島大学てんかんセンター医師によるWeb講演会を開催した。

講演活動：鹿児島大学医師らによる医師向けのとんかん診療啓発活動を続けている。

②行政職員研修

看護師、保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、事務職などの行政職員を対象に、てんかんに関する講演研修を行った。

③全国てんかんセンター協議会2022（鹿児島大会）の開催

鹿児島大学てんかんセンターの主催で、2022年3月5日（土）と6日（日）に、鹿児島県民交流センターにおいてハイブリッド形式で開催した。

2) てんかん診療拠点機関と地域の中核病院や地域診療施設との連携

①診療拠点機関はオンライン連携診療を開始している。今後、オンライン診療の啓発に努めるとともに、本県ならびに遠隔地にある中核施設において、においてどのような形のオンライン診療が適切かについての検討を進める。また、てんかん患者の診療受け入れが可能な地域施設の把握に努めた。

3) 県てんかん診療拠点機関の活動

①データの蓄積

②研修活動

院外医師を含めたハイブリッド形式の定期カンファレンス開催

③啓発活動

医療者に対するセミナーの提供

④コーディネーター研修支援

認定てんかん診療支援コーディネーター取得のための支援活動を継続している。

3. 課題解消に向けた取り組み

1) 診療拠点機関のてんかんコーディネーターによる相談・診療連携業務

てんかん診療支援コーディネーターの配置や育成に関わるコストの問題は、各県単位では困難。コーディネーターに興味を持つような啓発の継続。

2) 鹿児島県内の診療連携体制整備に向けた調整

てんかんの状態別に診療受け入れの可否を記した、てんかん診療県内マップの作製をしたいと考えている。一方で、他疾患でこのように診療内容を回想的に明確化したマップの作成はなく、こうした作業が受け入れられるかどうかについては慎重な同意と検討が必要。

3) 行政ネットワークとの連携

行政職員の人数は多く、研修会を通して、窓口となる職員や福祉関係の職員のいずれもがてんかんに関する知識を習得する機会を求めていることが示されている。引き続き、研修時間の確保、知識や意識の共有化を行い、活動目標の明確化を図る。

4) 非てんかん専門医や患者・家族が地域でてんかん診療行う際の不安因子の解消

地域でてんかん診療を行う際に、てんかんを専門としない医師や患者・家族が安心して加療を継続できることが望ましい。発作が安定している場合でも、患者家族には、てんかんに関係した社会福祉制度の利用や生活の注意点などの説明を必要としており、非てんかん専門医がてんかん診療を行う上で負担に思う原因の一つとなっている。各地域で一定水準の対応が可能なように対応法や、情報を得られる場所を記載した説明資材などの作成や、既存資料の案内を行う。